

① 住民との協働による、ハート&タイムシェアリング (デマンド型車輛運行とフレイル対策)

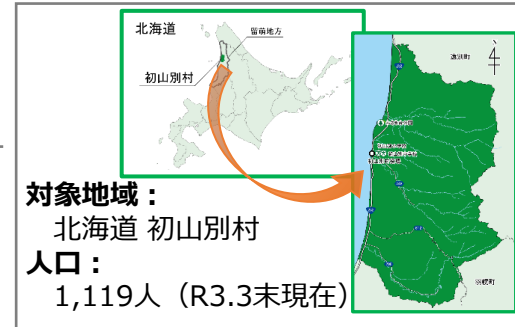
メンバー

実施者：北海道 初山別村

連携団体：NPO法人 全国移動サービスネットワーク、(公財) さわか福祉財団、初山別村地域公共交通会議(北海道運輸局旭川運輸支局、北海道留萌振興局、初山別村社会福祉協議会ほか)、ボランティアドライバー50人(認定運転者講習受講者)

活動目的

初山別村で生まれ育った人々の「この村に住み続けたい」という希望を叶えたい。買い物や通院等で交通手段を持たない高齢者に対し、温かい心を持ち合わせている地域住民(ボランティアドライバー)の協力をいただきながら、住民との協働により「安定性」「継続性」「安全性」に留意した地域公共交通の仕組みを構築し、有償運行として令和3年4月の本格運行を目指す。また、地域食堂の開催に伴い、高齢者の送迎を支援することで、人と関わる機会を増やしフレイル対策に繋げていく。



取り組み内容

キーワード：・住民との協働/戸別訪問調査/有償運送/地域公共交通会議/自家用有償旅客運送者登録証

1. ボランティアドライバーの確保：有償運行のため、認定運転者講習を受講いただき、50名を確保。
2. 65歳以上の老人夫婦・単身世帯への戸別訪問調査：買い物や通院の傾向と頻度が明らかになった。
3. 地域公共交通会議の開催及び自家用有償旅客運送登録申請：有償での運行が可能となった。
(村内を3地区に分け、片道同一地区内100円、地区外200円及び待機料金30分につき100円)
4. 利用者への戸別訪問調査：実証運行終了後に利用者宅を訪れ、運行についての評価をいただいた。

2020年度の活動実績

デマンド型車輛運行の実証実験：2020年10月から2021年1月までの4か月間、社会福祉協議会を受付窓口とし、国から自家用有償旅客運送者登録証を交付いただき、有償運行にて実施。利用者数49人、延べ165回の利用がされ、戸別訪問調査の結果、利用料金も含め満足していただけた。



しよさまる号

取り組みが地域に与えた影響

(量的な影響)

- ・65歳以上420人を対象に実施。利用者49人に対し運行を行い、うち28人が複数回利用された。(リピート率57.1%)
- ・気軽に利用できることから外出理由が買い物や通院だけでなく、催し物や会合へ参加する機会が増えた。
(利用先の割合：買い物9.5%、通院11.8%に対し、催し物(会合)49.1%であった。)

(質的な影響)

- ・移動の確保ができない場合、転出しなければならなくなるといった切実な問題について、解決策を示すことができた。
- ・実施主体(運営主体)を初山別村、運行主体を社会福祉協議会に委託することで、令和3年4月より本格運行を開始。
(新たに車両2台を村単独予算で用意、通年運行(年末年始を除く)として、土日祝日にも対応する。)

取り組みで得た知見(これから取り組む方に伝えたいこと)

過去の実証運行で得た課題や問題点を改めて検証し、より継続性のある事業とするために見直しを行った。必要なものを明確化し、1,000人規模の村が継続し続けられるラインがどこなのか、運行する側の必要な人数と工程について、可能な限りスリム化し、そこから足りない部分を補っていくことで、身の丈に合った持続可能な制度に近づけると思われる。

専門家コメント_福島大学

- ・村内に3箇所ある特定郵便局を拠点に、地域の人材を活用した自家用有償旅客運送に取り組む。道内の大学生による住民インタビューを行い、移動の「困り感」や住民協働の可能性を明らかにしたうえで、事業に着手したプロセスは好事例。
- ・人口が少なく縦に細長い土地の中で、村民が困らないようにするための仕組み(デマンド)を使い、うまく機能させた好事例。R3年度は村が車両を購入し、実装した点が素晴らしい。